

「無住職寺院実態調査」についての

調査結果と考察の概要

伝道部 過疎地寺院振興対策室

本稿では、過疎地寺院振興対策室が令和四年に実施した「無住職寺院実態調査」の結果と考察の概要を掲載する。

一．調査の概要

〈一〉調査の目的

近年、日本においては人口減少や少子化・高齢化の急速な拡大が顕著であり、その影響もあってか長期にわたる不活動、または住職不在の寺院が散見されている。過疎地寺院振興対策室では、これまでの聞き取り調査などから、こうした寺院の維持が現地の方々の負担となっていることを問題と捉え、全国の実態を把握するために、無住職寺院を対象としたアンケート調査を実施した。

〈二〉調査方法・内容

曹洞宗の被包括法人（宗務所である特別寺院、海外の特別寺院は含まない）のうち、無住職寺院（代表役員が就任していない寺院※令和四年四月四日時点）を対象として左記の項目を調査した。

- ① 檀徒の有無について
- ② 信徒の有無について
- ③ 建築物の有無について
- ④ 居住者の状況について
- ⑤ 建築物・境内地の管理者について
- ⑥ 寺院の用途について
- ⑦ 埋葬施設の有無について
- ⑧ 埋葬施設への参詣者の有無について

⑨後継予定者について

⑩調査対象寺院の宗費負担者について

⑪調査対象寺院の今後の展望について

なお、調査および回答は、調査対象寺院が所属する教区の教区長に依頼し、実情を知る方への聞き取りも可能な限りお願いした。

〈三〉調査期間

調査票配布（令和四年四月一三日）

〓 回答期限（令和四年六月一七日）

〈四〉回収の状況（令和四年七月二二日時点）

調査票配布数…四〇〇通

調査票回収数…三一七通

（内、有効票…二八八通、無効票…二九通）

回収率…七九・三%

なお、調査開始後に、代表役員の就任手続き中など「具体的な後継予定者あり」と回答を受けた寺院は調査対象から除外し、無効票とした。

二、「後継予定者の有無」からみた無住職寺院の実態

〈一〉無住職寺院の六五%以上は

後継予定者がいない（図1）

まず、無住職寺院の後継予定者の有無から確認していく。

図1のように、有効票二八八カ寺のうち、「後継予定者なし」と回答した寺院は六四・六%（一八六カ寺）と高い比率を占め、「後継予定者あり」と回答した寺院は一九・四%（五六カ寺）であった。

このように、無住職寺院の約六五%において後継者の成り手がおらず、「わからない」と回答した寺院も含めれば、さらに多くの寺院において今後も住職不在の状態が継続すると考えられる。

〈二〉無住職寺院の六〇%以上は

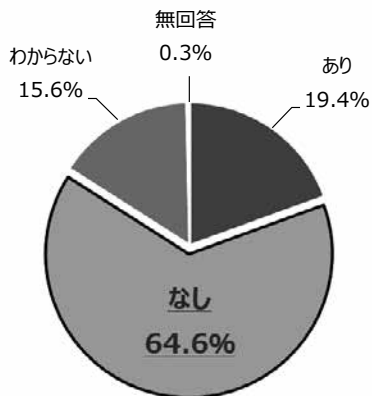
合併・解散を望んでいる（図2）

では、後継予定者なしの無住職寺院の今後について、関係者はどのような展望を持っているのだろうか。

今回の調査では、寺院の今後の展望として、「再生・活性化を希望」、「合併・解散を希望」、「その他を希望」の三つの項目を設け、最もあてはまるものを選択し

【図1】 無住職寺院の後継予定者の有無

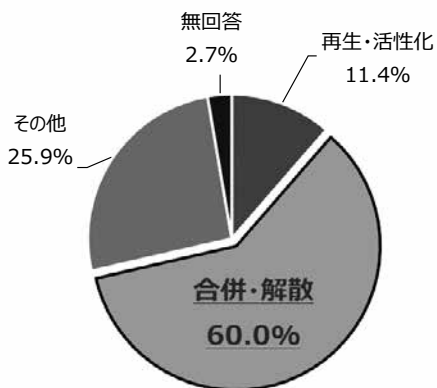
後継予定者あり	56カ寺 (19.4%)
後継予定者なし	186カ寺 (64.6%)
わからない	45カ寺 (15.6%)
無回答	1カ寺 (0.3%)
合計	288カ寺



【図2】 後継予定者なしの無住職寺院の今後の展望

	後継予定者なし
再生・活性化	21カ寺 (11.4%)
合併・解散	111カ寺 (60.0%)
その他	48カ寺 (25.9%)
無回答	5カ寺 (2.7%)
合計	185カ寺

※欠損値1



てもらった。その結果、「再生・活性化」は二一カ寺（一一・四％）、「その他」は四八カ寺（二五・九％）において希望されていたが、最も多いのは「合併・解散」を希望されている二一カ寺（六〇・〇％）であった。

なお、後継予定者なしの無住職寺院一八六カ寺のうち、誤記入のあった一カ寺を除いた一八五カ寺を対象とした。

合併・解散を希望されている寺院の調査票をみると、

- ・檀信徒がおらず寺院収入が見込めない
- ・建物が老朽化しており修繕や管理が難しい
- ・寺院の維持費や宗費など経済面での負担が大きい

といった理由があり、特に寺院の維持・管理が困難であるとの理由が最も多かった。多くの無住職寺院において、寺院の維持や管理、宗費などの負担があり、後継予定者がいないことから、永続的な護持は困難であるといえる。これらは過疎地寺院振興対策室がこれまで聞き取り調査などで把握していた状況と同様で、全国的に一定数見られることが分かった。

〈三〉無住職寺院の合併・解散に向けた

課題は多い(図3)

さて、合併・解散を希望されている後継予定者なしの無住職寺院は、手続きを進める上で、どのような問題や課題を抱えているのだろうか。

今回の調査では、合併・解散に当たっての懸念点として、「建物や墓地の処分」を挙げる寺院が多かった。

そこで、合併・解散を希望されている後継予定者なしの無住職寺院の「建築物の有無」、「埋葬施設の有無」に着目し分類を行った。その結果、建築物や埋葬施設を保有していない寺院は二五カ寺、保有している寺院は八三カ寺であることが明らかとなった。

なお、合併・解散を希望されている後継予定者なしの無住職寺院一一カ寺のうち、前述の項目に「無回答」であった三カ寺を除いた一〇八カ寺を対象とした。

まず、建築物や埋葬施設を保有していない寺院の調査票をみると、

- ・檀信徒や建築物がなく、宗教法人として運営ができない

【図3】 建築物・埋葬施設の保有状況（内訳）

「建築物・埋葬施設」保有なし		「建築物・埋葬施設」保有あり	
25カ寺		83カ寺	
建築物なし・埋葬施設なし	: 24カ寺	建築物あり・埋葬施設あり	: 40カ寺
建築物なし・埋葬施設不明	: 1カ寺	建築物あり・埋葬施設なし	: 26カ寺
		建築物あり・埋葬施設不明	: 8カ寺
		建築物なし・埋葬施設あり	: 9カ寺

・寺院の名前だけが残っており、存在を知る人が少ない
 ・宗費の負担が非常に大きい

といった内容であった。さらに、二五カ寺のうち二四カ寺は檀信徒がおらず、中には法人格のみ残っている寺院も確認された。合併・解散に際し、建築物や埋葬施設を保有していない寺院においては、それらの処分が不要であることから、費用面での負担はやや小さく、主に事務作業によって手続きを進めることが可能であるといえる。

一方、建築物や埋葬施設を保有する寺院においては、事務手続きだけではなく、それらの処分が課題になり得ると考えられる。

なお一般的な傾向として、建築物や埋葬施設を処分した際の帰属先は、合併では、被吸収寺院の財産は吸収寺院に帰属し、解散では、財産は売却や寄付などで第三者に帰属する場合が多い。そのため、解散においては建築物や埋葬施設の引き取り手が見つからず、手続きが滞ってしまう可能性が考えられる。したがって、建築物や埋葬施設を保有する寺院においては、解散よりも合併の方が比較的容易であるといえる。

しかし、合併・解散における懸念点は、「建物や墓地の処分」以外にも記載があり、

・代表役員や責任役員がおらず、手続きの担い手がない

・老朽化した建物や墓地の処分に伴う費用の捻出がでない

・申請書類などの手続きの煩雑さ

といった意見があった。

合併・解散を進めるには、法人規則に従って様々な手続き（責任役員会議の開催や檀信徒への説明、公告、財産の処分など）を行い、所轄庁や宗務庁を合わせ多くの書類の申請が必要である。さらに、建物の解体や墓地の整理が必要な場合は、それらの費用も工面しなければならず、関係者には相当な労力や経済的負担が生じると予想される。また、そもそも手続きの担い手となる住職がない場合は、現実的に合併・解散を関係者のみで進めることは困難であるといえる。そして、合併・解散を望まれている無住職寺院からは、「手続きを簡素化してほしい」、「宗務庁が主導となって手続きを進めてほし

い」といった声も多く寄せられていた。

このような実態に鑑みると、合併・解散を希望されている後継予定者なしの無住職寺院に対し、宗務庁の介入や支援を進める必要があるといえる。

なお、合併・解散の手続きについては、宗教法人法に沿って手続きが行われるため、簡素化することは難しい。しかし、手続きに関する相談や問い合わせなどは宗務庁で随時受け付けており、今後も真摯に対応を続けていく。さらに、手続きの流れや申請書類を分かり易くまとめた『合併・解散マニュアル』を曹洞禅ネットに公開しているため、ぜひ参考にしていただきたい。

また、今回の調査において、宗務庁が介入しなければ合併・解散が進まない寺院のうち、手続きにおける課題が比較的少ない寺院を把握することができた。しかし、各々の寺院の置かれている状況や環境は異なるため、個別の対策が必要になる。まずは、所轄庁をはじめ関係各所と連携を図り、どのような対応ができるかを検討し、合併・解散の事例づくりに努めていきたい。

〈四〉合併・解散を希望していない無住職寺院も

一定数ある(図2)

今回の調査では、後継予定者なしの無住職寺院のうち、一定数が「再生・活性化」や「その他」を望まれていることも確認できた。

再生・活性化を希望されている寺院の調査票をみると、

- ・地区のお寺として守っていききたい
- ・檀信徒が寺院を維持していきたいという強い思いがある
- ・開山時からの祖師、地域の人々の思いや信仰を考えると再生の責務を感じる

といった理由があった。また、その他を希望されている寺院においては、「現状維持を希望する」という回答が最も多い意見であった。

このように、再生・活性化やその他を希望されている寺院の多くは、寺院の護持の継続という意味合いで回答していることが確認できた。しかし、こうした希望はあっても、後継者不在や経済的負担により、永続的な護持は難しい状況にあると推察される。

また、再生・活性化の課題は、無住職寺院に限らず、

曹洞宗寺院全体に共通した課題として取り組まなければならない。過疎地寺院振興対策室としては、引き続き活動事例の紹介などの取り組みを進めていきたい。

三、過疎地域・非過疎地域にみる無住職寺院の実態

〈一〉無住職寺院は非過疎地域に多く所在する(図4)

ここでは無住職寺院と過疎地域の関連性について考察する。無住職寺院について考慮するとき、多くの場合、過疎問題についても言及される。

この度、有効票とした二八八カ寺のうち、約四四％が過疎地域に所在することが確認できた。結果として無住職寺院のうち、非過疎地域に所在する寺院の割合が過疎地域に所在する寺院の割合を二・五ポイント上回ることとなった。つまり、無住職寺院は非過疎地域に比較的多く所在していることがわかる。

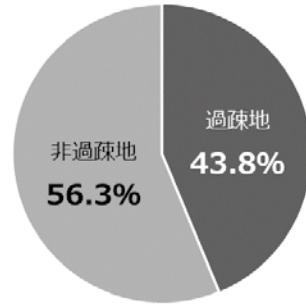
〈二〉無住職寺院は過疎地域だけの

問題ではない(表1)

引き続き、無住職寺院と過疎地域の関連性について考

【図4】 無住職寺院の立地

過疎地	126カ寺 (43.8%)
非過疎地	162カ寺 (56.3%)
合計	288カ寺



【表1】 無住職寺院の立地と檀徒・建築物・後継予定者の有無

	「檀徒の有無」			「建築物の有無」			
	あり	なし	わからない 無回答	あり	なし	無回答	
過疎地域 (126カ寺)	68カ寺 (54.0%)	48カ寺 (38.1%)	10カ寺 (7.9%)	過疎地域 (126カ寺)	103カ寺 (81.7%)	23カ寺 (18.3%)	0カ寺
非過疎地域 (162カ寺)	60カ寺 (37.0%)	84カ寺 (51.9%)	18カ寺 (11.1%)	非過疎地域 (162カ寺)	132カ寺 (81.5%)	29カ寺 (17.9%)	1カ寺 (0.6%)

	「後継予定者の有無」		
	あり	なし	わからない 無回答
過疎地域 (126カ寺)	18カ寺 (14.3%)	85カ寺 (67.5%)	23カ寺 (18.3%)
非過疎地域 (162カ寺)	38カ寺 (23.5%)	101カ寺 (62.3%)	23カ寺 (14.2%)

察する。無住職寺院となる要因、もしくは無住職寺院であるために起こる状態として、「檀徒がいない」、「建築物がない」、「後継予定者がいない」などが挙げられる。

表1のように、建築物ありの無住職寺院は過疎地・非過疎地域で違いがなく、合併・解散に向けて課題を抱えている状況は同じである。また、檀徒なし・後継予定者なしの無住職寺院も非過疎地域においても割合が高く、早急な対策が必要である。

四、まとめ

以上のように、「後継予定者の有無」や「過疎地域・非過疎地域」に着目し、無住職寺院の実態について述べてきた。

現状として、後継予定者なしの無住職寺院は、将来的に合併や解散を希望している割合が高いが、その多くは関係者のみでは手続きが行えない状況にあることが明らかとなった。また、無住職寺院は過疎地域に限らず、非過疎地域においても存在し、同じように維持・管理が困難な状況にあり、対策を必要としていることも確認された。

過疎地寺院振興対策室としては、前述のとおり、宗務庁が介入しなければ合併・解散の手続きが進まない寺院に対し、どのような対策が行えるのか個別に検討を進めていきたい。まずは、所轄庁をはじめ教区や関連寺院と連携を図り、より詳細な寺院の実態把握、及び課題の抽出を行い、合併・解散の事例づくりに努めていきたい。

最後に、寺務ご多用の折、調査にご協力いただいた教区長さまをはじめ、寺院関係者の皆さまに感謝の意を表しますとともに、今後もお力添え賜りますようお願い申し上げます。

合併・解散の手続きに関するお問い合わせ

曹洞宗宗務庁総務部庶務課

〇三―三四五四―五四二二 shomu@sotozen.jp

後継者に関するお問い合わせ

曹洞宗寺院後継者相談所

〇三―三四五四―五四二一

本調査に関するお問い合わせ

曹洞宗宗務庁過疎地寺院振興対策室

〇三―三四五四―五二五五 kasofutaisaku@sotozen.jp

無住職寺院実態調査 単純集計表

問1 檀徒の有無について

	回答数	%
檀徒あり	128	44.4%
檀徒なし	132	45.8%
わからない	28	9.7%
無回答	0	0.0%
合計	288	100.0%

「檀徒あり」の内訳（推定数）

	回答数	%
10件以下	34	26.6%
11～50件	53	41.4%
51件以上	33	25.8%
無回答	8	6.3%
合計	128	100.0%

※合計は問1で「檀徒あり」と回答した寺院数

問2 信徒の有無について

	回答数	%
信徒あり	63	21.9%
信徒なし	159	55.2%
わからない	58	20.1%
無回答	8	2.8%
合計	288	100.0%

問3 建築物の有無について

	回答数	%
建築物あり	235	81.6%
建築物なし	52	18.1%
無回答	1	0.3%
合計	288	100.0%

「建築物あり」の内訳（複数回答）

	回答数	%
本堂	198	84.3%
庫裏	146	62.1%
礼拝対象（祠・御堂など）	74	31.5%
その他	19	8.1%
無回答	2	0.9%
回答総数	439	--
基数	235	100.0%

※基数は問3で「建築物あり」と回答した寺院数

問4 居住者の状況について

	回答者	%
いる	58	20.2%
いない	222	77.4%
わからない	5	1.7%
無回答	2	0.7%
合計	287	100.0%
欠損値（エラー回答）	1	

「居住者がいる」の内訳（複数回答）

	回答者	%
前住職またはその関係者（親族・法類など）	54	93.1%
檀信徒	0	0.0%
その他	5	8.6%
無回答	0	0.0%
回答総数	59	--
基数	58	100.0%

※基数は問4で「居住者がいる」と回答した寺院数

問5 建築物・境内地の管理者について

	回答者	%
いる	196	68.3%
いない	68	23.7%
わからない	23	8.0%
無回答	0	0.0%
合計	287	100.0%
欠損値（エラー回答）	1	

「管理者がいる」の内訳（複数回答）

	回答者	%
前住職またはその関係者（親族・法類など）	76	38.8%
檀信徒	99	50.5%
その他	40	20.4%
無回答	4	2.0%
回答総数	219	--
基数	196	100.0%

※基数は問5で「管理者がいる」と回答した寺院数

問6 寺院の用途について（複数回答）

	回答者	%
檀信徒の葬儀・回忌供養	84	35.7%
施食会・彼岸会・三仏忌・開山忌などの年中行持	105	44.7%
公共的な利用（公民館・集会場など）	19	8.1%
別の団体や個人などによる活動	1	0.4%
使われている形跡はあるが、目的及び使用者は不明	5	2.1%
その他	51	21.7%
わからない	45	19.1%
無回答	8	3.4%
回答総数	318	--
基数	235	100.0%

※基数は問3で「建築物あり」と回答した寺院数

問7 埋葬施設の有無について

	回答者	%
埋葬施設あり	174	60.4%
埋葬施設なし	83	28.8%
わからない	27	9.4%
無回答	4	1.4%
合計	288	100.0%

「埋葬施設あり」の内訳

	回答者	%
墓	171	98.3%
納骨堂	10	5.7%
無回答	0	0.0%
回答総数	181	--
基数	174	100.0%

※基数は問7で「埋葬施設あり」と回答した寺院数

「埋葬施設あり／墓」の内訳（複数回答）

	回答者	%
歴代住職や亡僧	133	77.8%
檀信徒や地域住民	113	66.1%
わからない	6	3.5%
無回答	12	7.0%
回答総数	264	--
基数	171	100%

※基数は問7で「埋葬施設あり」かつ「墓」と回答した寺院数

「埋葬施設あり／納骨堂」の内訳（複数回答）

	回答者	%
歴代住職や亡僧	3	30.0%
檀信徒や地域住民	9	90.0%
わからない	1	10.0%
無回答	0	0.0%
回答総数	13	--
基数	10	100.0%

※基数は問7で「埋葬施設あり」かつ「納骨堂」と回答した寺院数

問8 埋葬施設への参詣者の有無について

	回答者	%
いる	128	73.6%
いない	21	12.1%
わからない	25	14.4%
無回答	0	0.0%
合計	174	100.0%

※合計は問7で「埋葬施設あり」と回答した寺院数

問9 後継予定者について

	回答者	%
いる	56	19.4%
いない	186	64.6%
わからない	45	15.6%
無回答	1	0.3%
合計	288	100.0%

問10 調査対象寺院の宗費負担者について（複数回答）

	回答者	%
調査対象寺院の寺院関係者	97	33.7%
前住職の血縁関係者（親族など）	45	15.6%
教区寺院	10	3.5%
檀信徒	104	36.1%
その他	30	10.4%
わからない	21	7.3%
無回答	2	0.7%
回答総数	309	--
基数	288	100.0%

※基数は有効票とした寺院数

「調査対象寺院の寺院関係者」の内訳（複数回答）

	回答者	%
本寺	68	70.1%
末寺	0	0.0%
法類	10	10.3%
他	19	19.6%
無回答	2	2.1%
回答総数	97	--
基数	97	100.0%

※基数は問10で「調査対象寺院の寺院関係者」と回答した寺院数

問11 調査対象寺院の今後の展望について

	回答者	%
再生・活性化を希望	65	22.6%
合併・解散を希望	122	42.5%
その他を希望	77	26.8%
無回答	23	8.0%
合計	287	100.0%
欠損値（エラー回答）	1	